

P 2

漢方薬（瀉剤と補剤）による 抗ウイルス作用の検討

○村山次哉、*山口宣夫、*清水昌寿、栄鶴義人
鹿児島大学医学部難治性ウイルス疾患研究センター
*金沢医科大学血清学教室

<目的>ヘルペスウイルス科の一つであるヒトサイトメガロウイルス（HCMV）は、時として肺炎・網膜炎・大腸炎等の重篤な日和見感染症を発症することが知られている。これらの発症予防および有効な治療法確立のために、漢方薬による HCMV の抗ウイルス作用を検討した。宿主の免疫能と抗ウイルス作用発現に際し、免疫能を増強することは必ずしもウイルスの排除に繋がらない恐れがある。そこで今回、漢方薬の中でも、瀉剤を選び補剤を対比させて検討した。

<材料と方法> 漢方薬は瀉剤の小青竜湯、補剤として補中益気湯および十全大補湯の3種類を用いた。HCMV は実験室継代株の Towne 株を、細胞はヒト胎児肺線維芽細胞（HEL）を用いた。ウイルス感染価の定量は、HEL 細胞を用いたブランク法によった。更に感染細胞中のウイルス DNA 量の検索は、dot blot hybridization 法により行った。プローブは、前初期遺伝子に対する PCR 産物を ECL システムでラベルしたものをを用いた。

<結果および考察> 1) 小青竜湯、補中益気湯、および十全大補湯の抗ウイルス作用を検討したところ、小青竜湯が最も強い効果を示した。2) 小青竜湯による抗ウイルス効果は、濃度依存的であり、少なくとも 0.1 $\mu\text{g/ml}$ の濃度で約 50%の抑制効果が見られた。3) 感染細胞内ウイルス DNA 量も同様に抑制された。4) この濃度での HCMV に対する直接作用および HEL 細胞に対する細胞毒性は認めなかった。5) さらに HCMV 感染細胞に出現する細胞変性効果（CPE）も、濃度依存的に抑制された。漢方薬製剤、特に瀉剤が、in vitro での HCMV の DNA 合成およびウイルス複製を抑制することが示された。このことは、日和見感染予防にも何らかの効果を持つことが期待される。